

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」をめざす。

- 1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「豊かでたくましい人間性」の涵養
- 2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「基礎体力」・「確かな学力」の定着
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

2 中期的目標

- 1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「豊かでたくましい人間性」の涵養

(1) 安全安心な学校生活。

ア 生徒をより深く理解するために、「個人面談週間(4月・6月・11月)」を充実させる。

また、「学年会議」「支援教育委員会」「ケース会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。

※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(R2:58.9%, R3:66.8%, R4:76.2%をR6年には80%にする)

※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(R2:67.8%, R3:88.1%, R4:86.0%をR6年には90%にする)

(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。

ア 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。校内外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。

※ 「泉南警察防犯ボランティア」「阪南TVはなていチャンネル」「農園活動」等地域社会との交流の充実を図る

イ 基本的な生活習慣の確立。

※ 年間遅刻者数 (R2:8173人, R3:7350, R4:5123人をR6年には1000人以下にする)

※ 年間欠席者数 (R2:7722人, R3:7685人, R4:5682人をR6年には1000人以下にする)

ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を実感させる。

※ 生徒の「文化祭・体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」(R2:57.5%, R3:66.8%, R4:82.5%をR6年には90%にする)

(3) 人権尊重の教育の推進

ア 人権教育推進計画の作成及び実行

※ 生徒の実態を踏まえ、本校生徒に即した計画を立て、計画に沿った学習・研修を実行する

イ 同和教育・ジェンダー平等教育・互いを認め合い、共に生きる教育の推進

※ 人権教育の一環としてあらゆる教育の推進に努め、教員への研修、生徒への教育を実施する

- 2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「基礎体力」・「確かな学力」の育成

(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。

ア ICT活用した取り組み・1人1台端末の効果的な活用による、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。

※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(R4:100%を維持する)「ICTを使って双方向の授業を展開している」(R6年には80%にする)

※ 生徒の「授業などで1人1台端末を活用している」(R4:80.6%をR6年には100%にする)

イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。

※ 生徒の「授業はわかりやすく楽しい」(R2:60.7%, R3:62.1%, R4:70.6%をR6年には80%にする)

(2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。

ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。

イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。

※ 「漢字検定」の全生徒受験・「英語検定」「簿記検定」受験推進および合格率向上

ウ あらゆる科目において、「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。

※ 生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(R3:60.1%, R4:66.1%をR6年には80%にする)

※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(R2:47.6%, R3:54.9%, R4:67.6%をR6年には70%にする)

- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成

(1) キャリア教育プランの実行。

ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。

※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(R2:63.8%, R3:80.4%, R4:83.2%をR6年には90%にする)

イ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。

※ 生徒の「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる」(R2:62.6%, R3:82.5%, R4:83.6%をR6年には90%にする)

ウ 卒業時の進路未決定者の割合を減らす。(R2:5.0%, R3:4.1%, R4:2.4%をR6年には0%にする)

- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

(1) 授業改善のための学び合い。

ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。

※ 教員の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(R2:77.6%, R3:91.7%, R4:82.1%をR6年には100%とする)

イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。

ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。

※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(R2:52.6%, R3:57.6%, R4:55.8%をR6年には80%とする)

(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。

<p>ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。</p> <p>※ 教員の「若手教員と先輩教員の交流を定期的実施している」(R2:49.0%, R3:83.4%, R4:82.1%をR6年には100%とする)</p> <p>イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。</p> <p>※ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(R2:79.6%, R3:86.1%, R4:78.1%をR6年には100%とする)</p> <p>5 働き方改革に関する取組</p> <p>(1) 業務改善の推進</p> <p>ア 学校行事や会議、打合せ等の見直し、会議や打合せ等の効率化、事務の電子化等の合理化を図る。(R4は職員会議の回数を20回以内に抑える)</p> <p>イ 部活動の負担軽減</p> <p>※ ガイドラインの作成、土日の活動はどちらかにするなどのルール作り</p> <p>ウ 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制</p> <p>※ 出退勤時刻の適正管理、時間を客観的把握と必要に応じた指導・助言、会議や打合せ等が勤務時間外に及ばないように留意する。(月80h以上の超勤者0人)</p> <p>エ 学校を支援する人材の確保</p> <p>※ 学校の教育活動を支援するボランティア等の外部人材を積極的に活用する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p>1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる『豊かな社会を』『たくましく生きる力』の涵養</p>	(1) 安全安心な学校生活。	<p>ア 「個人面談週間」やPTA 活動等を活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p>	<p>ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」80%以上 [76.2%]、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」90%以上 [86.0%]</p>	
	(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。	<p>ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 基本的な生活習慣の確立、教員が登下校時の指導・見守りに当たるなど遅刻防止等の指導方法を検討する。それらのことにより、生徒の規範意識を高めるとともに遅刻・欠席者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p>	<p>ア 「防犯ボランティア」「阪南TVはなていチャンネル」「鳥東ネット」「地域清掃」「農園活動」等ボランティア活動等に延べ100人以上の生徒が参加 [91名]</p> <p>イ 年間遅刻者数を3000人以下 [5123人] 年間欠席者数を3000人以下 [5682人]</p> <p>ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「文化祭・体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」85%以上 [82.5%]</p>	
	(3) 人権尊重の教育の推進	<p>ア 人権教育推進計画の作成及び実行</p> <p>イ 同和教育の推進・ジェンダー平等教育の推進</p>	<p>ア 生徒の実態を踏まえ、本校生徒に即した計画を立て、計画に沿った学習・研修を実行する</p> <p>イ 人権教育の一環として同和教育・ジェンダー平等教育の推進に努め、教員への研修、生徒への教育をそれぞれについて年間1回以上実施する</p>	

府立泉鳥取高等学校

<p>2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「確かな体力と学力」の定着</p>	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。</p>	<p>ア 学習支援クラウドサービスを活用し ICT 環境整備に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>ア 授業・講習等が直接進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及び PTA 等の協力を仰ぎながら漢検・英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p>	<p>ア 学習支援クラウドサービスを活用し教員の「ICT を使って授業を展開している」100%維持 [100%] 教員の「ICT を使って双方向の授業を展開している」60%以上 [実績なし] 生徒の「授業などで1人1台端末を利用している」90%以上 [80.6%]</p> <p>イ 放課後、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努めるとともに生徒の「授業はわかりやすく楽しい」80%以上 [76.1%]</p> <p>ア 生徒の「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上 [66.1%]</p> <p>イ 全生徒が漢検を受験 英検の受検者数を30名以上 [21名]</p> <p>ウ 生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」70%以上 [66.1%] 生徒の「自分の学力の向上を実感している」70%以上 [67.4%]</p>	
<p>3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることが出来る生徒の</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p>	<p>ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p>	<p>ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上 [83.2%]</p> <p>イ 大学進学者のオープンキャンパス参加数100名[90名]、インターンシップ等への参加者の10%増加 [28名] 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」85%以上 [83.6%] 保護者の「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。」80%以上 [71.9%]</p> <p>ウ 大学、短大進学者の100%進路決定 就職希望者の就職未決定者0人 進路未決定のままの卒業生0名 [3名]</p>	
<p>4 自ら学び続ける教師集団の確立</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員や保護者が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>ア 研修会を開催し資質向上に努める。 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>イ 全国等で開催される講演・研修会や先進的な取り組みをする学校・PTA・部活動等に出向き研修する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 全教員がミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる</p>	<p>ア 年3回以上の研修会を開催する。[8回] 教員の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」95%以上 [82.1%]</p> <p>イ 学期ごとに1名以上が研修結果等を報告 [2名] 教育センター研修等を6人以上が実施する [7名]</p> <p>ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」70%以上 [55.8%]</p> <p>ア 週に1回学年を超えた交流の場を設け情報交換、意見交換の場を設ける</p> <p>イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」85%以上 [78.1%]</p>	

5 働き方改革に関する取り組み	(1) 業務改善の推進	<p>ア 学校行事や会議、打合せ等の見直し、会議や打合せ等の効率化、事務の電子化等の合理化を図る</p> <p>イ 部活動の負担軽減</p> <p>ウ 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制</p> <p>エ 学校を支援する人材の確保</p>	<p>ア 職員会議の回数を20回以内に抑える[20] 会議の資料をペーパーレス化し事前提出化する 欠席連絡を学習支援クラウドサービスの活用により効率化を図る。職員会議についてはすべての会議でクラウドサービスを活用する。</p> <p>イ ガイドラインの徹底、土日の活動の負担減 夏季「5日以上」冬季「6日以上」の学校閉庁日を設ける。毎週月曜日または水曜日を休養日とし、土日はどちらかを休養日とする。</p> <p>ウ 毎週水曜日を一斉定時退庁日に定め生徒・教職員に徹底するとともに厳守させる。 月80h以上の超勤者0人[2人]</p> <p>エ 教育ボランティアの募集、来てもらっている カウンセラーの活用促進、スクールソーシャルワーカーの導入、福祉協議会、NPO団体などの活用、TNET等の英語専科を担当する教師などの活用、部活動指導員、スクールサポートスタッフなど、多様なスタッフの配置促進</p>	
--------------------	-------------	---	---	--